



日本女医学会

創立百二十周年記念号

2023年9月25日発行 ● 題字 吉岡彌生

さらなるジェンダー平等の推進を目指して 創立120周年を迎えた日本女医会



記念式典次第

昭和大学上條記念館 B1F 富士桜 10:30 ~ 11:08

- 総合司会…………… 庶務部 芳川た江子 宮坂晴子
- 開式の辞…………… 副会長 青木正美
- 日本女医会会長式辞…………… 会長 前田佳子
- 来賓祝辞…………… 内閣府男女共同参画局長 岡田恵子 殿
- …………… 日本医師会会長 松本吉郎 殿
- …………… 昭和大学学長 久光 正 殿
- 国際女医会会長祝辞(録画)…………… Eleanor Nwadinobi
- 国際女医会副会長祝辞(録画)…………… Dr. Bong Ok Kim
- サファイア会員表彰…………… 栃木支部長 山崎トヨ
- 閉式の辞…………… 副会長 藤谷宏子

ト開催も視野に入れて記念式典・講演会・祝賀会の準備をすることとなった。

2022年12月初旬の記念行事開催直前は、重症化する人の割合は減り、オミクロン株対応ワクチンの接種も始まって、新規感染者の増加ペースは穏やかになっていたが、コロナ第8波はまだ入りの段階で、感染急速拡大時は行事を中止する覚悟で準備を進めていた。

記念式典・講演会・祝賀会

午前10時30分、青木正美副会長の開会の辞で記念式典開始。前田佳子会長の式辞につづき、岡田恵子内閣府男女共同参画局長、松本吉郎日本医師会会長、久光 正昭和大学学長より来賓祝辞を賜り、Eleanor Nwadinobi 国際女医会会長、Bong Ok Kim 国際女医会副会長より録画ビデオで祝辞を賜った。山崎トヨ栃木支部長がサファイア会員表彰を授与され、藤谷宏子副会長の閉会の辞で11時式典終了。

記念写真撮影後、前田会長、作家の北原みのり氏による記念講演会「日本女医会の歴史と展望」を開催。日本女医会黎明期の社会情勢と諸先生方のご苦勞を知り、改めて120年という歴史の重みを感じる講演であった。

祝賀会では医師で声楽家の田中美智代(みちほっち)氏の美しいソプラノが会を祝福してくださり、久しぶりに会う仲間との歓談に花が咲いた。

記念式典・講演会・祝賀会 概要

日本女医会理事・IT部 木村友美

コロナ禍の対面開催に喜び一入

2022年12月11日(日) 穏やかな冬晴れの日、昭和大学上條記念館「富士桜」に於いて、日本女医会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会が行われた。新型コロナウイルス感染防止のため、入場時アルコール消毒、マスク着用、黙食が推奨される状況であったが、日本女医会員、来賓を含め58名が出席され、約3年ぶりに対面できた喜びにあふれる一日であった。

創立百二十周年記念事業準備

前田佳子会長の提案により、対面、オンラインのハイブリッ

CONTENTS

記念式典次第…………… (1)	記念講演(2)…………… 北原みのり(4)	サファイア会員名簿…………… (9)
記念式典・講演会・祝賀会概要…………… 木村友美(1)	創立百二十周年祝賀会次第…………… (6)	百二十周年記念事業奮闘記…………… 青木正美(10)
記念式典式辞…………… (2)	祝賀会スナップ写真…………… (6)	出席者名簿…………… (11)
前田佳子、岡田恵子、松本吉郎、久光正	祝賀会に出席して…………… 角田由美子(6)	スタッフ紹介・感想…………… (11)
記念講演(1)…………… 前田佳子(4)	アトラクション声楽 演目紹介…………… (7)	寄附者名簿、編集後記…………… (12)
	サファイア会員挨拶…………… 山崎トヨ(9)	

日本女医会創立百二十周年 記念式典式辞

公益社団法人日本女医会会長
前田佳子



本日は日本女医会創立120周年記念式典にご参加いただき、心より感謝申し上げます。私は今まさに、120周年の歴史の重みをひしひしと感じながらこの場所に立たせていただいております。同時に、この喜ばしい瞬間を、皆様とともに祝うことができることは、私にとってこの上ない喜びです。

日本女医会は1902年に前田園子を中心に設立されました。創設者と同じ前田姓であることに運命を感じています。日本女医会設立時の理念は、女性医師が団結をして力を合わせよう、そして女性のために人類のために働こう、というものでした。また、立ち上げの趣意書には、女性医師が協力し、日本社会全体の女性の地位を向上させ、国の発展にも寄与する、更には国際的にも活動していこう、という高い志が記されていました。

実際、女性の人権擁護のために第二次世界大戦の前から大日本婦人会、処女会、愛国婦人会などの婦人団体とともに活動してきました。現在も当初の理念を保ち、国際婦人年連絡会や国連NGO国内女性委員会の加盟団体として活動を継続しております。また、女性の権利を守り、社会的地位の向上を実現するために政治にも訴えてまいりました。女性の国政参加が認められ、1946年4月の戦後初の衆議院議員選挙で誕生した日本初の女性議員39名のうち、3人が日本女医会の会員でした。

国際的活動の主体は国際女医会です。1919年9月にニューヨークで初めて国際女医会議が開催された時にも日本女医会会員が出席し、その後正式に設立した国際女医会に日本女医会から2名が入会しました。戦後になって日本女医会として正式に加盟し、会員団体としての活動を継続しています。本日も国際女医会から祝辞をいただいております。

日本女医会は20年前の2002年に創立100周年を迎え、10年前の2012年には公益法人制度改革を機に、公益社団法人を取得いたしました。それからの10年は公益社団法人として多くの公益事業を行ってまいりました。最近の3年はCOVID-19のパンデミックの影響を受け、日本女医会もIT部を設置し、これまで遅れていたオンライン化を促進しまし

た。本日もこの記念式典をYouTube配信で同時視聴していただくことが可能となっており、後日HPでも公開する予定になっています。

日本女医会が120年前から目指してきた日本のジェンダー平等は、先輩方の多大な努力があったにもかかわらず残念ながらまだ達成されていません。しかし、今の世界を変えるのは今を生きている私たちの仕事です。次の世代により良いバトンを渡せるように、世界のジェンダー平等に追いつくためには、異次元のスピードが求められています。この達成に向けて、世界で一番歴史の長い女性医師の団体「日本女医会」の活動に、今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

祝辞

内閣府男女共同参画局長
岡田恵子



公益社団法人日本女医会が創立百二十周年を迎えられますこと、そして本日記念式典が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また日頃より男女共同参画推進連携会議の活動にご理解ご協力いただいておりますことに対し、改めて感謝申し上げます。

日本女医会におかれましては医学の発展・向上に寄与する若手研究者に向けた研究助成や女性医師・医学生のカリキュラム支援をはじめとした数々の公益事業を通じて女性医師の社会的地位の向上と研鑽のために取り組んでいただいていると承知しております。

近年、女性の就業率が上昇する中、仕事と生理や妊娠、出産等に関する女性特有の健康問題との両立が課題となっております。令和2年12月に閣議決定いたしました第5次男女共同参画基本計画では、「女性の生涯を通じた健康支援」を重要な分野の一つとして位置づけております。

女性医師の方々は当事者としての立場からも女性特有の健康課題に気づきやすく、女性の包括的な健康支援を発展させるためにも、医療分野における女性の参画拡大は必要不可欠と考えております。政府は医療分野で活躍なさる女性医師の割合を高めるために医学生に対するキャリア教育の充実に取り組んでおりますほか、女性医師がキャリアを中断せず継続的に活躍していただけますよう、職場環境の整備に向けた包括的な支援などに取り組んでおります。また医療従事者のワークライフバランスの確保、女性の就労継続・再就職支援などを進めますとともに、医療機関や関係団体の組織の多様

化を図り、政策方針決定過程における女性の参画拡大を推進しております。

女性活躍・男女共同参画の歩みをさらに前に進めていくためには、各分野における皆様のお力が欠かせません。貴会のお取組が医療分野における女性のさらなる参画拡大のために、力強い後押しになりますことを心より期待しております。

結びに前田会長をはじめとする関係者の皆様のご尽力に改めて敬意を表しますとともに、日本女医会のますますのご発展、また本日ご参加の皆様のご健勝を祈念いたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。

祝辞

日本医師会会長
松本吉郎



日本女医会創立百二十周年、誠におめでとうございます。本日はこのような晴れの席にお招き賜りまして前田佳子会長をはじめ会員の皆様方のご厚情に深く感謝を申し上げます。

ご承知の通り貴会は女性医師の育成、そして地位確保と研鑽を目的として創設され、学術研究助成、健康に関する啓発事業、若い女性医師や医学生のキャリア継続支援等の活動を今日まで精力的に続けておられます。

明治女医名簿によりますと、創設当時医籍登録された女性の数は81名であります。明治の末には240名まで増加しましたが、当時は今よりもずっと女性の社会的地位が不安定であり、医業開業試験に合格されて男性と同等の資格を得たとしても、当時の女性医師が大変苦勞されたであろうことは想像に難くありません。

そのような困難を経て貴会が120年もの長きにわたって、脈々と女性のエンパワメントとジェンダー平等への取り組みを続けておられることは、歴代会長をはじめとする役員ならびに会員各位の強い団結とご尽力の賜であり、深く敬意を表する次第でございます。

令和2年時点での女性医師の数は7万7546名となりました。女性医師の数は年々増加しており、医師全体に占める女性の割合も増えてきております。貴会の活動は増えゆく女性医師が疲弊することなく、尊厳と誇りを持ち、活き活きと働くことができる医療界の実現に寄与するものであり、今後の活

動にご期待申し上げます。

日本医師会は平成10年より女性医師の支援を行ってまいりました。引き続き男女ともに働きやすい勤務環境の構築に向けて、全力で取り組んでまいり所存でございますので、日本医師会の会務運営に一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本日お集まりの皆様のご健勝と日本女医会の今後のさらなるご発展を衷心よりご祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞

昭和大学学長
久光 正



本日は日本女医会創立百二十周年、誠におめでとうございます。また併せましてその記念すべき会を本昭和大の上條記念館で開催していただいたことを誠にありがたく思っております。これも前田佳子会長が本昭和大の重要な職員であり、また臨床医として大活躍をされているということが関わっていると思います。

日本女医会は日本の女性医師の地位向上や活躍を支援することを目的としているとお聞きしています。昨今の昭和大で言いますと、新規入学の医学部学生は男女ほぼ同数でございます。年によっては少し女性の方が多い時もありますが、だいたい半々でございます。卒業後、多くは大学の病院に勤務します。その後、大きく変化が出てくるのは、結婚あるいは出産により職場を離れる時です。その後の復帰の際に、大きな困難があるかと私は感じております。そのようなことをできるだけなくすために、復帰のための支援をする、大学あるいは病院、医療機関すべてが最大限の応援をするのはもちろんのこと、その女性医師が関わっている学会が、現場に復帰するための様々な支援、学問的な支援、技術的な支援等を行うことが必要なのではないかと思っております。

本学としては今後、そのような方向で最大限女性医師が職場に復帰し、大活躍をしていただけるよう、応援していきたいと考えております。

この女医会の力で日本全国の女性医師の皆さんが最大限の能力を発揮し、日本の医療に貢献されることを切に願って、お祝いの言葉とさせていただきます。

エレノア・ヌワディノビ国際女医会会長とボンオク・キム国際女医会西太平洋地域副会長の祝辞につきましては『日本女医会創立120周年記念誌 日本女医会百年史 追補版 2002-2022』の7、8ページに掲載されておりますのでご覧ください。

“日本女医会 120年の歴史と展望”

公益社団法人日本女医会 会長 前田佳子

日本女医会の歴史を語るには、深く関わった3人の女性を中心にお話する必要があります。女性で初めて国家資格をとった荻野吟子、創始者で今年生誕150年を迎えた前田園子、初代会長で東京女子医科大学の創設者でもある吉岡彌生、の3人です。

荻野
吟子

吟子は1851年に埼玉県熊谷で生まれ、17歳で地元の名士の息子と結婚しましたが、夫に性病をうつされ、離婚しました。1870年に治療のため東京大学に入院しましたが、男性に治療を受けた恥ずかしさに加え、女性を軽視する社会を変えるために日本で初めての女性医師を目指しました。15年かかってその目標を達成したのは、全ての分野で男性上位という先入観や偏見がなくなり、性別に関係なく個人の個性と能力を認め合う社会に変わることを目指し、女性解放に力を注ぎました。亡くなる前年の1912年の日本女医会春季例会に出席して医師になったときの苦労を話し、日本女医会雑誌の第1巻には吟子の寄稿が載っています。

吉岡
彌生

荻野吟子が女性医師を目指した頃に生まれたのが吉岡彌生と前田園子です。彌生は静岡県掛川市の漢方医の家庭に生まれました。済生学舎という医師国家試験受験のための学校に入学し、吟子が切り開いた女性医師の道を歩み、27人目の公許女性医師になりました。彌生が29歳の時に済生学舎が女性の入学を拒否したことから、初の女子のための東京女医学校を創設しました。女性の医師を育てたいというだけでなく、女性が手に職をつけ、自立できる手段として医師という道がいいという考えがありました。

前田
園子

彌生の1年後に生まれ、同じ済生学舎を卒業し、公許女性医師12号となりました。1902年には「女性医師の団体を作り、力を合わせて女性のため人類のために働く」という理念を掲げて日本女医会を設立しました。1914年上野精養軒で第1回日本女医会総会が開催され、44人が出席しました。

日本女医会は1920年に会長を置くこととなり、彌生が初代会長に就任、吟子や園子と同じように女性の社会的地位向上のために尽力し、日本女医会の他にも多くの女性団体の役員を務めました。

創立100周年からのあゆみと女医会宣言2022

2002年に創立100周年を迎え、新宿の京王プラザホテルで記念式典を開催しました。現在の美智子上皇后陛下がご臨席され、祝辞を述べられました。2012年には公益社団法人を取得し、創立110周年祝賀会ではiPS細胞の網膜への臨床応用について第一人者であった高橋雅代先生に講演していただきました。公益社団法人を取得してからはこれまでの事業を継承するのみならず、遺贈していただいた寄付金で、新たな研究助成として山崎倫子賞、溝口昌子賞、山本纈子賞を創設し、戦後から加盟している国際女医会における活動を含め、10以上の公益事業を継続しています。

2018年8月2日に読売新聞は「某私立医科大学が女子受験生の点数を不正に減点していた」というスクープ記事を掲載しました。その日のうちにテレビや新聞から取材を受け、性差別は時代に逆行しており、女性であるという理由で学ぶ環境や働く環境を奪われないよう、性別を問わず能力を発揮できる職場を作るべきである、という内容のコメントをし、HPにも掲載しました。

2015年に国連が掲げたSDGsの5番目の目標は「ジェンダー平等を実現しよう」です。日本女医会はこれに120年前から取り組んでまいりました。

120周年を迎えた2022年を記念して、「日本女医会宣言2022」*をここに宣言いたします。

日本女医会創立百二十周年記念講演 (2)

“日本女医会誌から見た 日本女医会の歴史”

作家 北原みのり



日本女医会120周年、おめでとうございます。この度、女医会の会誌をさかのぼって読みました。関東大震災によって前半の会誌は消失してしまいましたが、大変な歴史的価値のある資料です。本日は会誌を読み解きながら日本女医会の歴史を追いかけてしたいと思います。

高橋
瑞

高橋瑞先生は自ら済生学舎の門前に三日三晩立ち続け、長谷川泰に直談判し門を開かせ、後に続く女医の道を拓きました。明治17年、荻野吟子先生が医師免許を取得する1年前のことです。男子と共に学ぶ場は決して安全ではありませんでした。学校が終わると、男子学生が寮の壁を乗り越えて買春に行っていたことなども、吉岡先生等の座談会で語られています。ある日など、男子たちがこんな演説をしたことがありました。

*日本女医会宣言につきましては、会誌248号に掲載しています。

「女子学生はこの学校の組織に食い込み、学生を腐敗と墮落に導くことの特異性バクテリアである。済生会の風紀を維持するためにも、1日も早くこのバクテリアを駆逐しなければならない」

胸が熱くなるのは、この演説に抗議し「女医学生懇談会」が創られたことです。しかも、「尊敬する先輩を顧問として迎えたい」として、当時の女子学生たちが荻野吟子先生や高橋瑞先生たちを頼っているのです。

吉岡彌生

そのような過酷な環境で勉強した吉岡彌生先生は、1892 明治 25 年医師になります。女性としては 27 番目でした。吉岡先生の行動力には圧倒されます。1900 年に済生会が突如、女性の入学を禁止し在学中の女子学生も拒絶をしたその年に、東京女子医大の原点をつくったというのは衝撃です。

恐らく吉岡先生はアクティビストとしての気質があったのでしょう。自由民権運動のスターであった岸田俊子や景山永子への強い思いを語り、「二人の勇ましい女性 2 人の登場は、今まで眠っていた日本の女性を揺り起こし、今では想像もつかないほどの深い影響を広範囲に及ぼした」と高い評価をしています。「景山永子みたいな女性になりたい」という言葉も残っています。女性の人権と、社会の動き、政治的なことにも関心の強い、言論することにも意義をもたれていたことがわかります。

吉岡先生が幼い時分、自由民権運動は明治 17、18 年頃をピークに盛り上がり、女性たちも弁士として活動していた。そういう空気を吉岡先生は感じられていたのかもしれませんが。大日本帝国憲法が制定される 1890 年明治 23 年頃からは、急速に家父長制度が固まり保守化が深まっています。少し前の自由な空気を知りながら、閉塞感のある女性に厳しい時代の空気の中でもがきながら、挑もうとされていた。女性の領域を守ろうとした吉岡先生の強さに感銘を受けずにはいられません。

前田園子

一方、そういう吉岡先生のスター性と比して、前田園子先生が残されたもの、書かれたものがあまりに少ないことが、とても不思議です。

20 歳に医師免許、本郷協会の会員となり、26 歳で結婚、27 歳で子どもと夫を亡くしました。日本女子大の校医になった年に、女医会の設立を提唱されます。敬虔なクリスチャンで内村鑑三氏の監修で「あはれみは審判に勝つ」という本を 1927 年に出されている。女性たちを支えるための会を提起され、そして女医会の雑誌をつくと提案し、自らの財産を寄付されたのは前田園子先生でした。特に、荻野吟子先生について二番目に公許女医になった生沢クノ先生は、長い間、詳細がわからないとされていました。女医会のメンバーが探だし、晩年の生沢先生にインタビューをしている号があります。前を歩く女医を、後続の女性医師たちが敬意をもって話を聴く姿が雑誌に現れている。そのような場を積

極めにつくろうとした前田園子先生のことを、もっと知りたい、研究対象になるべき人ではないかと思えます。

戦争による休止と再びつながり、声をあげる意義

次第に戦争の足音が日本を覆います。女医会も戦争とは無縁ではられません。女医公許 50 周年が行われたのは 1935 年です。吉岡先生の文章が高揚感のある、八紘一宇を全肯定するムードです。この頃の女医会にはナチスドイツとの関わりなども、紹介されています。そしてついに 1945 年には物資不足もあり、雑誌発行自体が難しくなり、吉岡先生は戦後、公職を一時追放される身ともなり女医会自体の活動も休止していくのは皆さんがご存知の通りです。吉岡先生が女医会を復活させるのは 1955 年です。教職を追われ、公職にも就けないうなか、それでも女医会を再開しようと奮起された、最期まで行動力の方でした。

女医会の雑誌をひもときながら、何度も胸が熱くなりました。戦争に巻き込まれなかった女性団体はありません。市川房枝さんのような方ですら、戦争中は国に利用される道を選びました。そうでなければ、運動を絶たれるか、または逮捕されるか、という道しか残されていなかったからです。そういうなかでも、女医会の医師達は集い続けていました。これは日本女医会京橋支部の結成の様子ですが、「エネルギーを分散されがちな女性にとって、協力一致は女性の地位向上にいかん重要であるか」という話がされたことが残されています。この言葉には、はっとさせられます。子どもを産むか産まないか、結婚するかしないか、女性たちは未だに分断されがちです。公的な場所から排除され、圧倒的な不利な条件で仕事をしてきました。そういうなかで、女性医師たちが絶対に手放さなかったものは、女性への信頼、女性の未来をサポートしようとする力でした。残酷な時代に巻き込まれながらも、それでも、なぜ、女性たちがつながり、女性の医師、という場所にこだわるのか。その意味を、つきつける、今にも十分に響く言葉だと思います。

最後に、50 年史を編纂していた時の編集者の言葉が面白かったのでご紹介します。

「日本女医 50 年史を創る過程で、先輩女医の方々に往復はがきや手紙で経歴をお尋ねし、できるだけ正確なものと思って骨を折ってみても、大半は遠慮されて返事がなかったり、『子どもは何の価値もない者だから』などと、逃げてしまわれるので編者にとっては、どんなに失望させられるかわからない」

そう、もう、私たち女性は、遠慮しないで声をあげるべきなのだと思います。なぜなら、私たちが歴史をつくるからです。堂々と、医師としての人生を語り、語ることで未来を拓いていってください。女医会の歴史は日本の女性の近代の歩みそのものです。女医会の 120 周年の歴史は、重く、そしてあまりに尊いものです。その命脈を絶やさず、皆さんのお力でこの国の女性がより良い未来を描けるよう、どうかご尽力を続けていただければと願っています。

祝賀会スナップ写真

当日急な公務のため欠席された社会民主党首福島みずほ氏からはお祝いのメッセージをいただきました。



岩本絹子氏



橋本紀子氏



阿部知子氏



小池晃氏



自見はなこ氏



林裕子氏

公益社団法人日本女医会 創立百二十周年祝賀会次第

昭和大学上條記念館 B1F 富士桜
12:30 ~ 14:00

開式の辞 副会長 藤谷宏子

日本女医会会長式辞 会長 前田佳子

来賓紹介 庶務部

来賓祝辞

東京女子医科大学理事長 岩本絹子殿

乾杯挨拶

国際婦人年連絡会世話人 橋本紀子殿

来賓祝辞

立憲民主党衆議院議員 阿部知子殿

日本共産党書記局長 小池 晃殿

自由民主党参議院議員 自見はなこ殿

山口大学大学院特命教授 林 裕子殿

日本女医会会員挨拶 練馬支部 角田由美子

祝電紹介 庶務部

アトラクション声楽 田中美智代殿

閉式の辞 副会長 青木正美

祝賀会に出席して

日本女医会 練馬支部 角田由美子



日本女医会 120 周年おめでとうございます。皆様に温かいお言葉をいただきましてありがとうございます。

この会が発足いたしました明治 35 年と言いますと、当時の女性医師たちは、職場では尊敬もされていましたが、社会的にはとても弱い立場で、ある種の偏見もあり、とても悔しい思いをされたと思います。昭和 10 年生まれの私でさえ、大学病院で入院患者に主治医として挨拶に行きますと「何だ、女か」と言われたことも 1 度や 2 度ではございません。

そのような中で年に 1 回、各地で開かれる日本女医会総会は、勉強ができる場ということはもちろんのこと、一人で出かけるための大義名分にもなり、良い息抜きの場であったとも思われます。数年前までは前夜祭、朝食会ありの会でした。

日本女医会の会員になることは即、世界女医会議のメン

バーにもなります。これらの世界女医会議では日本の会議が一番古いのです。3 年に 1 度各国で開かれる会も楽しい会です。

日本では本会の百周年記念会と前後して、2 度目の国際会議が開かれました。その時、私は女医会の理事、副会長として、いろいろなことに関わらせていただき、とても貴重な体験をさせていただきました。国際会議で発表される乳児死亡率のあまりの高さに、今更ながら世界の広さに驚いたものです。その間に 3 年に 1 度、西太平洋地域会議というのもございます。これは太平洋の近くの国々が集まって行う会議なのですが、勉強になることもさりながら、民族衣装を身に纏ってのパーティもとても楽しいものです。

百周年記念の会には現上皇后様にもご挨拶いただきました。握手していただいた手のとても柔らかかったことが忘れられません。

皆様もこの後、日本女医会のいろいろな行事に参加されまして、素敵な経験を積まれますようにお祈りいたします。ちなみに日本女医会には学閥はございません。本会のますますの発展を心より祈念しております。



集合写真は日本女医会 HP 会員ページからダウンロードできます。



青木正美副会長



藤谷宏子副会長



芳川た江子庶務部部长



田原総一郎様ほか多数の方からご祝電、お花をいただきました。

アトラクション 声楽

田中美智代
(みちほっち)



演目紹介

◎はじめに

クラヴィ・シンバルムの演奏と弾き歌いによるクリスマスの歌
「久しく待ちにし」「牧人ひつじを」「荒野の果てに」

◎次に

Henry Purcell (1659-1695) 《The Fairy Queen》Z.629
Act2 “Come all ye songsters” “ May the God of Wit inspire”

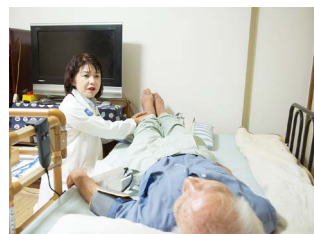
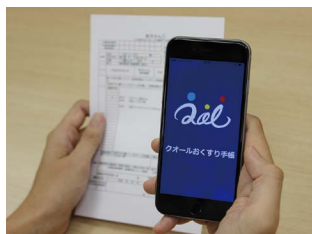
Act3 “If love's a sweet passion”
Act4 “Now the Night is chased away”
Act5 “Hark! The echoing air a triumph sings”
ヘンリー・パーセル作曲《妖精の女王》Z.629 より
第二幕より「来たれ汝ら 空の歌い手たちよ」
「智恵の神が聖なるミューズの女神たちを」
第三幕より「愛がもし甘い熱情ならば」
第四幕より「今夜は追い払われ」
第五幕より「お聴きなさい 大気はこだまして勝利を歌い」

17世紀イングランドの作曲家ヘンリー・パーセルによるセミ・オペラ《妖精の女王》はシェイクスピアの喜劇《夏の夜の夢》を題材にした劇付随音楽です。その中から、森の中の妖精の宴に誘う歌、宴の始まりの歌、恋の歌、妖精の女王の王配オベロンの誕生日を祝う歌、全てが解決してまことの結婚が成就した慶びの歌の5曲を選びました。この度の日本女医会創立120周年記念の会に際して、お祝いの気持ちを込めて演奏させていただきます。

◎おわりに

サン＝サーンス作曲「アヴェ・マリア」

あなたの、いちばん近くにある安心。



QOLとは、クオリティ・オブ・ライフという意味。
クオールの、社名の由来です。

クオールは、一人ひとりの患者さまに信頼される調剤薬局として、
あらゆる地域社会の健康で豊かな生活に貢献します。

これからも私たちは、安心・快適にご利用いただける薬局をめざし続けます。

くらしを支える、良質な地域医療をすぐそばで。

 **iel クオール薬局** グループ
Quality Of Life



サファイア会員賞をいただいて

日本女医会 栃木支部長 山崎トヨ



80人の皆様と一緒に、会員歴50年以上の表彰をいただきまして、誠にありがとうございました。

日本女医会は120年という、世界で最も古く長い歴史を持つ女性医師の会です。会長のお話にもありましたが、今日まで日本女医会は多くの公益事業を行い、また女性の地位向上にも努力してきました。

荻野吟子先生から始まり、幾多の困難を乗り越えて、女性医師の道を切り開き、今に残してくれた多くの先人には深い感謝と敬意を表したいと存じます。

ジェンダーフリーが叫ばれている昨今ですが、女性医師の不利益はまだまだ解消されておりません。これからも女性医師のかけがえのない大切な拠り所としての日本女医会であるべきだと思います。

この度、サファイア賞をいただいたことを契機として、微力ながら引き続き社会貢献をして参りたいと存じます。本日は誠にありがとうございました。

表彰者芳名 サファイア会員一覧 (80名)

河瀬 珍実 (北海道)	松永 幸子 (茨城)	花岡 和賀子 (中野)	鳴河 みどり (富山)
佐久間 和子 (北海道)	重城 敬子 (千葉)	高橋 通子 (東女医学内)	杉本 睦子 (大阪)
高松 むつ (青森)	森川 由紀子 (足立)	本田 正志 (東女医学内)	西嶋 攝子 (大阪)
藤盛 尚子 (青森)	林 節子 (板橋)	大林 万知子 (都下東)	渡辺 良子 (大阪)
金子 ミサヲ (秋田)	赤塚 智香 (江東)	小川 昭子 (都下東)	石川 知子 (京都)
菅野 喜與 (宮城)	西川 トシ (品川)	中林 瑞穂 (都下東)	宮崎 玲子 (京都)
古賀 詔子 (宮城)	高野 加寿恵 (渋谷)	王 瑞雲 (都下西)	森鼻 麗子 (兵庫)
佐々木 和子 (宮城)	武石 展代 (渋谷)	金子 智子 (都下西)	桑原 明子 (広島)
遠藤 顕子 (群馬)	吉田 茂子 (渋谷)	福岡 多美子 (都下西)	檜谷 鞠子 (広島)
木暮 満す子 (群馬)	土岐 尚子 (新宿)	高木 久佳 (神奈川)	庄司 眞喜 (鳥取)
宮原 茂子 (群馬)	太田 玲子 (杉並)	北村 佐千子 (静岡)	麻田 ヒデミ (香川)
秋濱 示江 (埼玉)	木村 典子 (杉並)	小林 成子 (静岡)	西山 苑 (愛媛)
市川 祥子 (埼玉)	白浜 優美子 (杉並)	坂口 潤子 (静岡)	加藤 竺子 (福岡)
小沢 博子 (埼玉)	中島 桂子 (杉並)	本多 和子 (静岡)	緒方 文江 (佐賀)
梶原 敬子 (埼玉)	山住 美津子 (杉並)	伊藤 貴子 (愛知)	福島 順子 (佐賀)
佐々木 裕子 (埼玉)	甲子 萬里子 (墨田)	伊藤 美智子 (愛知)	定 律子 (熊本)
長谷川 厚世 (埼玉)	大坪 公子 (世田谷)	田中 くに (愛知)	向井 貴美江 (大分)
清水 いはね (栃木)	小林 玲子 (世田谷)	中西 綾子 (愛知)	
堀口 文 (栃木)	林 福子 (世田谷)	長谷川 恒子 (愛知)	
山崎 トヨ (栃木)	岩佐 淳子 (台東)	上條 節子 (長野)	
出口 葉子 (茨城)	富岡 レイ (中央)	佐藤 栄美子 (新潟)	

120周年記念事業奮闘記

日本女医会副会長 青木正美

「日本女医会が120周年を迎える」……これは人間で言えば年女を10回、2回目の還暦を迎えるということではないか!

とんでもなくめでたい話ではないか! 100周年ほどの派手な祝いは要らないけれども、あと30年先の150周年祝いや80年先の200年祝いの席に、今の会員や理事達は誰一人として座ってはいないだろう。であればこそ、長く続く100年ぶりのpandemicの最中であろうとも、この記念すべき催しを執り行わない手はない、と私たち執行部が考え始めたのが2022年5月だった。

しかしpandemicの最中、人の集まりに対して特に医療界がセンシティブになっている時期でもあり、理事会でも諸手を挙げて賛成という雰囲気ではなく、賛成ではあるがちょっと心配という意見が多かった。であればホテルなどで豪華絢爛なパーティーを催すのではなく、ミニマムかつ記憶に残る会にしようということになった。早い話がケチケチ作戦で、仕切りもプロに任せるのではなく、会場だけ借りて理事達の手作りで会を執り行うこととなった。

まずは来賓の方々へのオファー、記念講演会の演者やお料理の選定、会の録画と生配信の手配、などを決めて行く作業が延々続いた。ここは前田会長の人脈に大いに助けて頂いた。

また会長は就任時から「ジェンダーギャップを縮めるために異次元のスピードでの改革」を内外共に呼びかけておられるので、記念講演会では現代日本の中でジェンダー問題のトップランナーであり、会長と青木の共通の友人でもある北原のみり氏に講演を依頼することとなった。北原氏は日本女医会の果たしてきた社会的役割に造詣が深く、また現代日本の“#MeToo”運動であるフラワーデモの発起人でもある。

更にアトラクションとしてキーボードの弾き語りで美しい独唱をされる田中美智代医師に出演頂くこととなった。

さて、来賓・講演者・アトラクション・ご出席者の方々が決まる中、理事達で120周年記念大会の全てを組み立てスムーズな運営もするという事は、思っていたよりも遙かに困難を伴う作業だった。事務局との連絡も含め、毎日毎晩絶え間ない連絡合戦、膨大なメールやLINEのやり取り、毎晩のように行われたzoom会議で叩き台を作りそれから入念なる台本

を皆で作っていった。またステージに上がる人々の動線確認やタイムキーパーから備品に至るまで、事前に決めておくべきことの多さに、途中で何度も心が折れそうになったりもしたが、不思議と毎回、メンバーの誰かがまるで女神が降りてきたかのようにまとめ上げる発言をしてくれ、さすが医師の集団なのだなあと実感することも多かった。

会場自体は広くはないがホワイエとの間の人の流れを頭に置きながら会場進行する上で、俯瞰して進行を見守る会場統括を木村理事に受け持って頂いた。司会は庶務部の芳川理事と宮坂理事。芳川理事は本当に気の抜けない長丁場の司会進行となる。そこでタイムキーパーとして進行をリードして行く役目を宮坂理事に担って頂いた。会場統括と司会タイムキーパーの2人のリーダーが決まったところで、この会の運営は初めて盤石なる推進力を得たのであった。それからは詳細な台本が完成し、それぞれの理事の役割分担を明確にして、連日入念な台本読み合わせのリハーサルが行われ本番当日を迎えたのであった。

が、当日は小さなトラブルの連続で、特にIT部の磯貝理事は収録担当の株耳のプロのチームと混ざり朝から夕方まで気を抜くこともできない緊張した現場でオンエアを担当して下さった。会費を徴収し管理するのは会計の超ベテラン塚田理事。大金の管理に責任を全うされ奔走された。真冬に行くパーティーなのでクロークもフル回転なのだが、もちろん理事が管理することになり、大谷理事・樋渡理事・望月理事の3人が交代でクローク用の小部屋にスタンバイし食事や講演会の間にも接客対応に当たって下さった。挨拶者などの動線確保のため牛山理事は席を温める暇もなく動き回り時間通りに誘導をして下さった。圧巻は野村理事で各界から当日お祝いで頂いた沢山の盛花から小さな花束を作り直し、来場者のお土産を作って下さり皆様に喜んでいただいた。もちろん、終了後の会場後片付けは理事と事務局で行ったのは言うまでもない。そして、藤谷副会長の心のこもった閉会の言葉をもって、長かった奮闘の日々に終止符が打たれたのであった。

大関監事、事務局の皆さん、並びに株耳の内田さまには格別に助けていただき、ここに心から感謝申し上げます。

注：記念講演会の模様は日本女医会のホームページからご覧いただけます。

出席者一覧 (41名)

新谷 朋子 (北海道)
高橋 英子 (青森)
高橋 枝み (青森)
豊岡 志保 (山形)
樋渡 奈奈子 (宮城)
竹並 麗 (埼玉)
知久 いづみ (埼玉)
宮坂 晴子 (埼玉)
塚田 篤子 (栃木)
馬場 安紀子 (栃木)
望月 善子 (栃木)
山崎 トヨ (栃木)
崎山 比早子 (千葉)
大谷 智子 (足立)
野村 和子 (板橋)
山上 実千子 (江戸川)
野村 明子 (葛飾)
藤多 恒子 (杉並)
青木 正美 (中央)
猪狩 和子 (豊島)
木村 友美 (豊島)
角田 由美子 (練馬)
平山 玖美子 (練馬)
岩崎 直子 (東女医学内)
山内 かづ代 (東女医学内)
渡邊 弘美 (東女医学内)
小出 彩香 (都下東)
磯貝 晶子 (神奈川)
牛山 元美 (神奈川)
小関 温子 (神奈川)
白木 桃子 (神奈川)
関口 由紀 (神奈川)
前田 佳子 (神奈川)
赤澤 純代 (石川)
野崎 京子 (大阪)
藤谷 宏子 (大阪)
芳川 た江子 (大阪)
東 あかね (京都)
溝口 秀昭 (選考委員)
大関 ひろ美 (監事)
沖村 英佳 (前監事)

氏名	役割	コメント
前田佳子	主催者	日本女医会 120 周年記念行事を企画したのは 2022 年 6 月であった。前年度には 120 周年記念誌の発刊しか決まっておらず、年内の開催は難しいとの意見も多かった。しかし、120 年の節目は二度と訪れることはなく、日本女医会の素晴らしい歴史を社会に広く周知するまたとない機会を失うことは痛恨の極みと言わざるを得ない。短期間で準備を成し遂げることができたのは、役員と事務の献身的な努力の賜物と感謝している。
青木正美	開会の言葉	開会の言葉を担当し、当日はただただ祈るばかりでご来賓の方々のご接待を担当しておりました。
藤谷宏子	会計・舞台設営・閉会の辞	この節目の事業の準備委員会に参加できたのは大変な幸運でした。120 年の歴史と同じように様々な紆余曲折はありましたが、大成功に終わりとても嬉しく思っています。
磯貝晶子	配信・女医会責任者	YouTube 生配信を担当しました。当日会場で突然 iPad での通信ができなくなってしまい、急遽バックアップで持参したノート PC で生配信を行いました。ドキドキでした。
牛山元美	誘導係	ご来賓や受賞者の誘導係を気負って会場内を動き回り、舞台の近くではカメラに映りこまないような変な姿勢で歩いてお見苦しかったかと思えます。失礼いたしました。
大谷智子	クローク	当日のクローク担当を樋渡理事と望月理事で行い、室内を開始時間前までに仕分けしやすいように工夫しました。前会長として指示された責務を遂行できました。
木村友美	会場統括	創立 120 周年という大切な節目に、理事として記念行事に関らせていただき大変嬉しいです。この歴史の重みを後世に引き継いでゆく重要性を感じております。
塚田篤子	会計	式典当日、受付にて会計を担当致しました。百周年の際は、一般会員として出席、百十周年では、理事役員として、受付業務に携わりました。月日は、流れました。
野村明子	会計・花束仕分	参加費用の徴収業務と、頂いたお花を皆様にお持ち帰り頂くために、講演会の間に花束を沢山作りしました。皆様には大変好評で、全てのお花をお配りすることができました。
樋渡奈奈子	クローク	はじめは具体的な作業が頭に浮かびませんでした。3人寄れば『文殊の知恵』ならぬ『熟女3人』知恵を絞り、トラブルなく、終了することができ、ホッといたしました。なかなかお話しする機会がなかった担当2名の理事他、心配されて様子を見に来られる先生方とも『井戸端会議』ならぬ、情報交換の機会ともなり、貴重な経験となりました。
宮坂晴子	司会・タイムキーパー	庶務の担当として、台本作成から始まり、当日の司会進行の大役で大変緊張した 120 周年の記念祝賀会でした。理事全員で協力して良い会になったと思います。
望月善子	クローク	女性医師の社会での活躍を応援し、医療の専門家として健康を再考する機会となりました。意思決定機関への女性の参画も重要課題としますので注力して参ります。
芳川た江子	司会・検温・舞台設営	日本女医会の 120 周年記念式典では、総合司会を仰せつかり大変緊張しましたが、みんなで一致団結して 120 周年の記念行事を無事に終えられて、本当によかったと思います。



百二十周年記念寄附者一覧(74名)

2023年7月31日現在 *は複数回ご寄附された方

澤田 香織(北海道)	塚田 篤子(栃木)	平山 玖美子(練馬)	松村 美代(京都)
新谷 朋子(北海道)	馬場 安紀子(栃木)	内潟 安子(東女医学内)	武會 恵理(京都)
北海道女性医師の会 (北海道)	山崎 トヨ(栃木)	瀬下 由美子(都下東) *	松田 隆子(鳥取)
大津 幸世(青森)	松永 幸子(茨城)	磯貝 晶子(神奈川)	笠原 郁子(福岡)
齋藤 美貴(青森)	小松崎 美穂(千葉)	伊東 香(神奈川)	木下 晴美(佐賀)
村岡 真理(青森)	山内 かづ代(千葉)	牛山 元美(神奈川)	向井 貴美江(大分)
中澤 操(秋田) *	野村 和子(板橋)	小関 温子(神奈川)	匿名希望
石川洋子(岩手)	宮川 美知子(板橋)	前田 佳子(神奈川)	<会員外個人>
西島 浅香(岩手)	岩本 絹子(江戸川)	池田 康子(山梨)	沖村 英佳
山口 淑子(岩手)	野村 明子(葛飾)	加藤 庸子(愛知)	林 裕子
菅野 喜興(宮城)	大澤 真木子(杉並)	高柳 泰世(愛知)	松本 吉郎
樋渡 奈奈子(宮城)	中島桂子(杉並)	瀧田 恭代(愛知)	溝口 秀昭
吉田 まどか(宮城)	山住 美津子(杉並)	玉井 浩子(愛知)	矢澤 健
山田 邦子(群馬)	大坪 公子(世田谷)	藤巻 篤子(富山) *	
市川 祥子(埼玉)	瀬戸口 志保(世田谷)	松村 美代(奈良)	
青木 三重子(埼玉)	矢後 文子(世田谷)	阪口 昌子(大阪)	
大塚 明子(埼玉)	青木 正美(中央)	野崎 京子(大阪)	
高野 眞綾(埼玉)	木村 友美(豊島)	藤谷 宏子(大阪)	
福島 佐代子(埼玉)	新井 寧子(中野)	宮本 治子(大阪) *	
島田 明美(栃木)	安達 茂代子(練馬)	東 あかね(京都)	
	角田 由美子(練馬)	藤原 祥子(京都)	

編集後記

藤谷 宏子

昨年開催された日本女医会 120 周年記念式典は、前田会長の開会挨拶に続き、著名な方々のありがたいお祝辞で開始されました。この記念号を拝読し、懐かしく思い出します。2 題の記念講演は日本女医会の歴史と活動につき、それぞれの立場からのお話で、心に響くものでした。また、サファイア会員の先生の人数やご寄附いただいた先生方の数の多さは目を見張るものがあり女性医師の強さを改めて感じました。

この 120 周年事業の開催までには、青木副会長の奮闘記にもありますように、少しトラブルもありましたが、この機会に多くの方に日本女医会を知っていただき、120 周年をともに祝いたいという会長の強い熱意で突き進み、大成功に終えることができましたのは皆様のおかげと感謝しています。コメントにもありますように役員の先生方は全員でそれぞれの分野で活躍していただきました。特に IT 部の活躍は素晴らしいものでした。手作りで出来上がった 120 周年記念事業が長く続く日本女医会の 1 ページになればと思っています。今後の日本女医会の発展と会員の先生方のご活躍・ご多幸を祈り編集後記とさせていただきます。

日本女医会誌 創立百二十周年記念号

2023年9月25日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 前田佳子

制作 あづま堂印刷

発行所 公益社団法人日本女医会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-19 ロワレル千駄ヶ谷 202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : office@jmwa.or.jp

